



ひやくたろうみぞ 百太郎溝の人柱

はじめに
熊本県球磨郡の人は、球磨焼酎で有名な酒どころで、市街地から少し離れると、そこには美しい田園風景が広がります。かつては荒涼としたこの土地を、美田に変えたのが宝永(1704~1711年)の頃に開削された幸野溝と百太郎溝という灌漑水路です。これらは、ほぼ同時代に建設されたにもかかわらず、幸野溝がその沿革や工事状況が比較的明らかであるのに対し、百太郎溝についてはほとんど何もわかっておらず、ただ人柱の伝説のみが伝えられています。

それでは、百太郎溝の人柱伝説を、百太郎溝土地改良区が平成5年(1993)に発行した『百太郎溝史』から紹介したいと思います。

百太郎溝の人柱

百太郎は、村はずれに母と二人で暮らす青年だったが、ある日の村の寄り合いから死人のような顔色で戻ってきた。

共通しています。つまり、この伝説は最初に百太郎溝という名前があったからこそ、生まれたことがわかります。

他所ではどうか

人柱伝説は新田開発、架橋、築堤など、百太郎溝と同じくほとんどが水に関わる工事に伝わっています。では、百太郎のように明らかに人名とわかるファーストネームを冠するものについて、他にも人柱伝説が伝わっている例があるのか、見ていきたいと思えます。

それらを探す資料には、インターネットのほか、都道府県別の地名事典である平凡社の「日本歴史地名大系」(全50巻)などを用いました。すべての事例を洗い出したとは言いがたいのですが、おおよその傾向はつかめると思えます。

利水・治水施設(A群)

まずは、用水路やため池、または河川堤防などの利水・治水施設などをみます。百太郎溝も含めた94施設のうち、施工者や出願者など建設に関わった人物にちなんだものが圧倒的に多く約50%、不明が約29%、地名や河川名などにちなんだものが約6%、人柱は約15%でした。

新田(B群)

つぎに新田開発では、278新田のうち開発者や居住者などの人物名が約68%。不明が約32%とこれです。

その寄り合いでは、この夏の決壊で水一滴も流れなくなった用水路について話し合われたが、だれもい考えが浮かばず、その場には重い沈黙が流れていた。これでは埒が明かないと、庄屋が何かを言おうとした時、突如叫んだものがいた。「もうこうなっちゃ仕方ありません。昔人への話に、人柱をたてなげや駄目だっ



百太郎溝(熊本県多良木町) 2019年撮影

べてを占め、人柱はゼロという結果となりました。

橋(C群)

さいごに橋では73橋うち、在原業平や菅原道真といった有名人にちなんだものが多く約26%、次いで地名が約23%、架橋に携わった人名と不明がそれぞれ約22%であり、土地開発者や渡し守の名など架橋地に由来するものが約5%、人柱は1橋のみ見られ1%未満となりました。

考察(A群)

これらの結果を考察しますと、まずA群ですが、人柱が伝わっているものを見ていくと、例えば岩手県の千貫石堤では、千貫で買われたおいらんという娘が人柱になったとか、大分県の初瀬井路のようにお初という娘が…とか、施設名の中に人柱になっ

て聞きもうしたが…人柱を!」。
一同はこの言葉を聞くと騒めきだした。「人柱って!」「生き埋めだ!」生きながら沈めるんだ!」「してだれがなるんだ。人柱に!」庄屋が一同を見まわした時、柱にもたれて座っていた老翁がつぶやいた。「親の代からの話に袴の横切れのふせは、死に装束と聞きもうした。この中にそういう者がいたら、人柱にたつてもらっちゃどうがんですか!」。

一同は、まさかそのような者がいるはずもないと思ひ、意義を唱えなかつた。しかし…「あつ横切れだ!ふせ切れだ!」「ひや、百太郎だ!」百太郎の顔色がさつと変わった。

訳を聞いた母は泣き伏した。「袴のふせをするんじゃないに…だれが言つた、だれが決めた!」。
その時、隣の家から「アイタヨイ アイタヨイ」と唸るような声が聞こえた。隣の老人は用水路の修理工事に参加し、大けがをして明日をも知れぬ身となった。「アイタヨイ アイタ

た者を無理やり見出そうとした例が目立ちます。また、三重県の孫右衛門人柱堤や福岡県のお糸池のように、堤防や池畔に由来不明の石像などがあつたことから人柱伝説がうまれ、後から通称として名付けられたものがあります。これらを見ると、こじつけでも人柱の存在を認めたいという人々の思いさえ伺えます。

日本人は怪談好きだからと言ってしまえばそれまでですが、察するに多大な労苦を払い、時には犠牲者までも出して造り上げた施設が、永久に守られるように水神の加護を求め、人柱伝説を作り出すことによつて、それを施設と結びつけようとしたのではないのでしょうか。実際、こうした施設には必ず水神が、石塔や神社に祀られています。その中で来歴不明となったものが孫右衛門人柱堤のような人柱伝説を生み出すことになったのでしょうか。

考察(B群)

一方でB群の新田ですが、新田が開かれた場合、石高を調べるため幕府や藩の検地を受ける必要があります。新田の名前はこの時に村人や領主、代官などによって付けられることが多いようですが、これはれっきとした公称となるため、人柱伝説が入り込む余地がなかったのではないかと思います。また、時を経て名前由来が不明となった場合でも、人柱のご利益を得ようと考えられるよりは、必ずしも縁起のよくない話をわが村

ヨイ」再び呻き声が聞こえると、今まで泣き沈んでいた親子の胸に、あまで決意が電光のようにひらめいた。「村人を救うんだ」「村を救うんだ」。
その夜、母は球磨川の濁流に身を投げた。母に先立たれた百太郎に、もはや気おくれは微塵もなかった。「わしあ水神さんになるんだ」百太郎は白木の棺に入れられて運ばれていった。

その後、村人は努力を続け、用水路は見事完成した。人々は百太郎の御霊を思い浮かべ、用水路を百太郎溝と名付けた。

人柱伝説の典型

この伝説では袴に目印のある人物が人柱に選ばれています。これは全国各地に伝わる人柱伝説の典型であり、この話の通りのことが百太郎溝であつたとは到底考えられません。また、このほかに百太郎は技術者だつたなど、人物像が異なる話もありますが、名前が百太郎であることは

の名前に当てはめようとは思わなかつたのではないのでしょうか。

考察(C群)

さいごにC群の橋ですが、人柱は1件のみ見られたものの、特徴的なのは有名人ゆかりの名前が多いことです。これは橋を地域のランドマークと人々がみなしたことから、それにふさわしい名前を付けようとしたのだと思われまふ。そうしたことから、やはり人柱云々はなるべく避けられたのだと思えます。

おわりに

このようにA群では圧倒的に開発に携わった者の名前が多く、人柱だというものには、こじつけとも取れる例が見られました。これらは施設を守る水神の存在を人々が求めた結果だと思われまふ。百太郎溝の場合、藩の力を借りずに村人だけで開削したと伝えられており、用水路の長久を願う気持ちは一層強かつたはずです。本来はA群の多くと同じ、開削に携わった者の名前を付けられているのが、やがて水路を思う人々の心情が、水神となった百太郎の伝説を生み出していったのではないでしょう。

(文:江口知秀)

この度、熊本県内をはじめ日本各地で豪雨災害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。そして、一刻も早い復興を願っています。



水戸神社 百太郎溝の水神として祀られた。祭神は百太郎だという。現在の百太郎溝取入口付近にある(熊本県多良木町) 2019年撮影

百太郎溝取入口旧樋門 現在の取入口付近にある百太郎公園に移築復元された。もとは200mほど下流にあった(熊本県多良木町) 2019年撮影